

令和4年度

広野小学校

「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

学んだことの定着率を高め、それらを活用できるようにするための授業づくりに取り組むとともに、家庭学習や読書の習慣を育てる。

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員	校長 山川 育英	教頭 東 正朗
		教務主任 寺奥 久滋	
寺奥 久滋		研修主任 木村 祥子	
		養護教諭 井内 菜津美	

校長

山川 育英

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、授業研究会等を踏まえ、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字を正しく読むことや、基本的な四則計算や数量・図形についての基本事項は身につけてきている。 ●言葉の意味理解や既習内容が正しく使えていない場面があり、計算間違いがあるなどにも、課題が見られる。	・漢字を正確に書き、計算を確実に解き(学期末の漢字テスト・計算テストで80点以上)、自ら見直そうとする。 ・分からない言葉を自発的に調べたり、学習した内容を活用して学校生活や新たな学習に取り組んだりする。	・ミニテスト等を実施して児童一人一人の理解状況を確認しながら学習指導に取り組む。 ・日記、作文指導やノート指導を行うとともに、日々の授業での振り返りや、既習事項を比べたり関連付けたりする活動を授業に取り入れ、知識・技能の定着を図る。	・個人差や学級の実態に合わせてながら、漢字・計算の基礎的な練習継続していく。 ・発達段階に応じた見直しや、調べ学習を取り入れる。	・全学年で、朝の活動や、ミニテスト、復習プリント等を利用して、基礎的な学力の定着に努めた。 ・ノート指導や作文指導、日々の日記を通じて継続的に指導を行った。学年に応じて、辞書や資料集、タブレットを活用した調べ学習を行った。	・辞書やタブレットを使って調べることができる児童が増えてきたので、来年度も継続して行う。 ・日々のノートや日記、課題の見直しをする習慣など、日々の積み重ねを大切に、指導を継続していく。 ・読む力の育成をするための読書の時間を確保する。(校内・家庭)

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ボイストレーニングや音読学習を毎日行い、はっきりした発音で読んだり、授業や集会等で自分の考えを伝えたりすることができるようになってきた。 ●文章や資料を読み取る力に課題がある。また、図や資料、複数の文章を読み取り、それをもとに考え判断する力が弱い。 ●自分の考えやその理由を、分かりやすく整理して伝えたり、説明したりする力に課題がある。また、友達の意見を聞いて自分の考えに生かすことが十分ではない。	・文章や資料を自らの力で読み取り、それをもとに自分の考えを深めたり、判断したりしようとする。 ・調べた事実や分かったことに自分の考えを付け加えて文章を書き、進んでみんなに伝えようとする。 ・ノートに自分の考えや授業後の振り返りを書くことができ、進んで伝えることができるようにする。	・絵や図、言い換え等を使って表現する活動を積極的に取り入れ、文章の要点やキーワードをつかめるようにする。 ・学習過程で児童の思考を見取り、話合いに生かしたり、ノート指導を行ったりする。 ・話合い活動の工夫(ICT機器やホワイトボードの活用等)を取り入れ、自分の考えを伝えたり、理由を説明したりする場を多く設定する。 ・ボイストレーニングの継続と内容の工夫、全校での音読集会を継続して行う。 ・体験学習や交流学習を積極的に行い、人とのつながりを深め、積極的に考えたり自主的に行動したりすることができるようにする。 ・今後も縦割り班での活動を続け、活動後に振り返りや反省の場を設けることで、一人一人が表現できる場を増やす。	・各学年の発達段階に合わせた読み取りの工夫を行っている。読み取ったことを自分なりの言葉で発表したり、友達同士で意見交換したりするなど言語活動の充実を図っていく。 ・少人数を生かし、ICT機器やホワイトボードの活用、ノートや児童の発言などから学びの見取りを行っていく。 ・児童が自主的に活動できるボランティアタイムや縦割り班活動を継続し、自主的行動したり、積極的に取り組んだりできるようにしていく。	・絵や図、写真や資料、新聞記事などを活用して全ての教員が、学級の課題に応じた読み取りの工夫を行った。 ・ノート指導や、学習の振り返り、全員発表などを取り入れ、発言の見取りだけに偏らないよう工夫する。 ・ホワイトボードやICT機器を活用し、言語活動の充実を図ることができた。 ・オンラインでの音読集会を複数回開催し、従来とは違った形で児童が発表する場を設けることができた。 ・体験活動はできなかったものもあったが、オンライン形式での交流学習を行ったり、縦割り班活動は一年間継続して取り組んだりして、自主的に行動しようとする児童が多く見られた。	・GIGAスクール構想の充実に向けて、タブレット端末のよりよい活用方法を模索、検討する。 ・ノート指導やめあてと振り返りなど、学習の過程で児童の思考を見取りながらの学習指導を継続していく。 ・各クラスが少人数であることを踏まえ、学級内だけでなく可能な限り全校での活動や異学年との合同学習の場を設け、自分の思いや考えを発表できるようにしていく。そのために、合同学習や縦割り班活動、児童会活動などの機会を生かしていく。 ・ノート等に自分の思いや考え、思考の過程をまとめたり、表現したりできるようにしていく。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○課題や作業に一生懸命取り組むことができ、宿題も忘れずできている。 ○読書の記録や読書賞などの取り組みにより、多くの児童が読書を楽しむことができている。 ●学童で宿題に取り組む習慣ができている反面、家庭で自主的に学習に取り組む習慣が十分とは言えない。	・意欲的に授業に臨み、進んで自分の考えを発言する。 ・学年に応じた家庭学習(家庭・学童)の時間を確保し、行おうとする。 ・学年に応じた本を選び、1週間に60分以上の読書活動を行おうとする。	・学習課題の提示と振り返りを毎時間行い、児童が見通しをもち、主体的に課題解決できるような授業展開を心がける。 ・課題のチェックや「学習の手引き」の活用により、家庭学習の重要性和学習時間の確保について、児童や保護者に働きかける。 ・「生活リズムチェック」や宿題、声かけにより、1日10分以上の読書および週末の家庭での読書を推進する。	・授業展開や学習形態を工夫し、より主体的に児童が学習に取り組めるように工夫していく。 ・宿題は、多くの児童が忘れずできている。日々の学習や読書時間が確保できるよう、引き続き働きかけていく。 ・生活リズムチェックや歯磨きトレーニングなどの取組も続け、規則正しい生活習慣が身につくよう指導を継続していく。	・学習課題の提示と振り返りについては、おおむね全ての教員が行うことができた。児童同士の教え合いや、ペア学習、調べ学習などを生かし、主体的に学習に取り組めるよう工夫した。 ・家庭で学習する習慣の確立に課題を感じた。宿題は多くの児童ができていないが、家庭学習の確保が十分でない。 ・各教科の学習内容や児童の興味に応じた本の紹介、週末読書、異学年への読み聞かせ活動、図書室利用の推進などを行った。 ・メディア利用の影響から生活リズムが崩れやすい児童が一部見られた。	・家庭学習時間の確保が十分にできるように、「家庭学習の手引き」の内容を見直し、学年間で宿題の量や内容の共通理解を図る。そして、家庭での学習習慣が身につくようにしていく。 ・読書習慣の定着を図る。今も行っている生活リズムチェックや、メディアコントロールの取り組みを継続し、生活リズムを整える指導を継続する。 ・個別課題を明確化し、実態に即した活動や指導を重ねていくことで、個別最適な学びができるようにする。

令和4年度 学力向上ロードマップ

